

令和6年度第4回学校運営協議会次第

日時 令和7年2月8日（土） 13：30～15：00
場所 多摩市立永山小学校 2階 家庭科室
全体司会 会長石川様
学校報告進行 教務主幹 青木
記録 CS担当 田後教諭
参加者 石川 富岡 秋間 針尾 榎原 太田 岡田
校長 副校長 青木 田後 柳原 小川 鬼頭

1 校長挨拶 5分

コミュニティスクール3年目が終わろうとしている。文化的行事2サイクルの展示会は、児童が名称を決めた『永山カラフル美術館』として開催できた。児童が作った作品を紹介する『ギャラリートーク』を実施した。

後期の学校評価の形式を変更し、教員の自己評価をとった。30項目で実施したが、ニーズ度があまり高いものがなかったので、今年度は40%以上の項目をニーズ度が高いもの（重要課題）として考えた。挨拶や主体的な学びについては、児童も教員も意識して取り組まなければならない。また、児童が主体となって行事に取り組むことやわかき学級との交流・共同学習に力を入れていく必要がある。学校運営協議会で、学校や地域の様子を伝え合うことが大切だと考えている。

今回の学校評価を踏まえて、今、児童アンケートをとっているが、児童がどう考えているかということと、教員のアンケートをすり合わせ、最重要課題を明らかにし、来年度の学校経営方針を作成していく。

地域防災表彰、サステイナブルアワード表彰、ふわほかおうえんルームが市議会でも話題になっている。教員異動については、修了式後に異動者からの挨拶をしてもらう予定。

2 内 容

(1) 永山カラフル美術館（展覧会的行事）について（柳原主任教諭）

（委員の皆様の感想も）

柳原：なるべく児童が主体となって取り組んでほしいという思いをもって、いくつか作成した作品の中から、見てほしい作品を自分たちで選んだ。また、ギャラリートークを実施して、子供たちは楽しみながら活動できた。異学年交流としても効果的だった。

岡田：5年生の時間に鑑賞した。ギャラリートークでの質問に困惑する場面もあったが、子供たちが一生懸命だったので、楽しむことができた。共同製作もすてきで見ごたえがあった。

太田：ギャラリートーク中、台本にないことを伝えると、固まってしまう場面があった。動画がすてきだった。

榎原：静かに見るのが展覧会だと思っていたが、にぎやかな展覧会もいいと思った。6年生の言葉遣いが丁寧で素晴らしかった。作品の完成度が高くて驚いた。「のぞいてみたら」が工夫されていてよかった。

針尾：子供たちの個性が光る、すてきな作品展だと感じた。子供たちの考えやイメージが見て取れる作品があり、成長を感じた。卒園していった子供たちの成長が見られて嬉しかった。

秋間：ホバークラフトのような遊びがある作品があり、素晴らしかった。作品を作った時期が分かると、子供たちの成長がより見られるのではないかと思った。大人の感性と子供の感性が異なるため、子供たちのよさが認められるような見せ方が大切だと感じた。作品を作っている場面の動画が充実しているとよりよかったのではないかと思った。

富岡：立体作品を作るときには、どのように見えるのかを考えながら作品を作っているのだと感じた。個人的にはお弁当の作品が気に入った。

石川：共同制作の洗濯ばさみの作品がすてきだった。モノトーンの墨絵があったり、カラフルな作品があったりして、とてもよかった。ギャラリートークによる交流がとても良いと感じた。大人だけが見て回る作品展ではなく、子供も参加できるすてきな作品展だった。

(2) 学校評価書について（青木主幹教諭）

年度初めに、教員が重点項目を考えた。

- ・ 確かな学力の育成 : アンケートの結果は目標に達しなかったが、ICT を使うことで表現力や主体性が高まった。ミライシードのムーブノートやロイロノートを使用して、表現が苦手な児童が自信をもって発言できるように工夫している。書くことが苦手な児童も取り組みやすくなっている。
- ・ 豊かな心の育成 : ユニバーサルデザインに対して、教員の中でも意識の差がある。そのため、意識の統一が難しい。
- ・ 避難訓練 : 子供たちの意識としてはできていると感じているが、教員側から見るとまだ課題がある。意識は高まっていると思う。放送を聞いて避難できるようにすることが必要。
- ・ 家庭や地域との連携 : 地域貢献を高めたい。中学年では、永山駅や商店街に行き、地域を活性化させるためにごみ拾いをしたりポスターを作成したりした。子供の思っている地域貢献と、大人が思っている地域貢献に差があるのではないかと感じた。

(3) 教員評価アンケート結果報告について（青木主幹教諭）

アンケートを実施したところ、①教職員の働き方について②児童への指導についての2つの意見に分かれた。ここでは、②について話していく。

- ・ 研究授業を行っていて、今年度は4人程度でグループを組んで授業を参観するようにした。若手・ベテランがバランスよく入り、授業のよかったところや改善点を伝え合い、授業力向上に努めている。
- ・ ユニバーサルデザインについては、学年確認欄を設けるようにしようと考えている。
- ・ 道徳の授業力向上を目指して、来年度は道徳の授業を参観できるような工夫を考えている。
- ・ 高学年の主体性が見られるような教師の投げかけが必要だと感じた。
- ・ 担任への挨拶はできているが、廊下ですれ違った大人に挨拶ができていない。
- ・ マラソンやなわ跳びを授業内で行いたいが、指導内容が圧迫されてしまう。

(4) 令和7年度の教育課程について【承認事項】（青木主幹教諭）

副校長からメールで送付済み。

質問：プールは使用しているか。

回答：現在は防火用水槽として使用している。水泳指導は NAS 永山で行っている。NAS 永山まで徒歩で移動している。

質問：なぜ11月の3連休にオープンデーを当てているのか。

回答：児童や教員が1日休みだと疲弊してしまう。体調管理のことも考え、3連休に当てている。

質問：外国語は5年生からなのか。

回答：中学年は外国語活動となっていて、教科ではない。高学年は外国語という教科になり、週2時間実施している。低学年は実施していない。中学年は英語を使ったゲームを取り入れ、楽しく学べる活動をしている。

質問：教育課程の中のユニバーサルデザインとは何か。

回答：ユニバーサルデザインの環境調整として、黒板の周りの掲示物をなくし、授業に集中できるようにする。また、授業の流れやめあて・まとめを掲示し、児童にとって集中できる環境にする。

質問：なぜ『礼儀』が道徳の内容に組み込まれているのか。

回答：価値項目で重点としている校内の児童の様子を見たときに、『礼儀』が課題となっている現状から組み込んでいる。TPOに合わせた言葉遣いや挨拶について学ばせたい。

(5) 授業改善（道徳の取り組み）について（鬼頭教諭・小川教諭）

小川：道徳の授業では、登場人物の動作を真似したり紙芝居を見たりして、考えを深められるように工夫している。板書を工夫し、子供たちの考えを視覚化し、考えをまとめるようにしている。

鬼頭：知的固定学級での道徳授業の工夫。挿絵を切り抜いて、紙芝居にしたりスライドで映したりして文字が少なくなるようにしている。ワークシートは教師用指導所付属の物ではなく、学級の実態に応じて変更している。ワークシートはタブレットと紙を選べるようにしている。

(6) 審議（承認事項について）・意見交換・情報共有（各委員）

教育課程…委員7名全員承認

～情報交換～

岡田：保護者のPTA離れを感じた。来年度集まるかどうか心配。ボランティアもなかなか集まらない。

太田：放課後子供教室でのトラブルの対応が難しい。

榎原：児童館でもトラブルがある。自分の感じたことや考えたことを伝えるようにしている。

針尾：こぐま保育園では、卒園の準備をすすめている。年長の子供たちの成長が著しい。石狩鍋を年長の子供たちが作り、全園児に配るイベントを行った。父母の会は活発になってきている。

秋間：PTAや父母の会はないが、年度当初にボランティアを募っている。保護者や子供の考えが時代とともに変わってきている。変化に合わせることが大切。

富岡：新年度の防災デーは11月22日（土）の予定。防災に対する意識をもてるようにすることが大切。賞をもらえたことが自信につながった。

石川：地域の行事に小さな子供を連れて参加してくれた人がいた。行事に来て、手伝ってくれた人がいて助かった。

3 次年度について

(1) 校長より

学校運営協議会の委員の継続をお願いしたい。地域に推薦できる方がいれば、校長まで連絡が欲しい。